

人権教育通信

今年度も活動へのご支援
ありがとうございました！

今年度も県人教が主催する研修会をすべて終えることができました。会員として支えていただいた皆さまに心よりお礼を申し上げます。

県人教は、長崎県の子どもたちが人権・部落問題学習を体系的に学ぶことができるような授業指導案・資料集をまとめました。3月中旬、会員の皆さまに「ホッとステップ&ACTION!（前編）」の冊子をお届けできるとしています。新年度からの実践に役立てていただければ幸いです。

第50回人権教育研究大会は、西彼杵郡（長与町・時津町）で開催予定です。

次年度もどうぞ
よろしく願
います。



県人教HPへ
<https://chojinkyo.net/>

子どもに確かな未来をー第35回長崎県進路・学力保障研修会ー

『『全国統一応募用紙』は、誰のためにあるのでしょうか

ー私たちおとなの認識を考えてみましょうー

講師 吉田 和徳さん(福岡県高等学校人権・同和教育研究協議会 研究部次長)

今年度の本研修会は録画配信(10/6-11/4)で開催しました。

新規高等学校(中学校)卒業生が就職活動のときに企業に応募する用紙が「全国統一応募用紙」です。これは差別のない公正な採用選考のために使用されるもので、50年の歴史があります。その内容が一部改訂され、今年度から使用されています(性別欄の削除など)。

高校の現場で取り組みを続けてこられた吉田さんは、今回の改定もまだ完成とは言えないと指摘されます。不利な状況に置かれる子どものことを、つい「仕方がない」と切り捨ててしまっていないでしょうか。今、小・中学生の子どもも、ほんの数年後には就職の時を迎えます。それまでに差別を許さない生き方をする力をつけていく必要があります。子どもたちの自己実現を支えるために、私たちもしっかり学び、議論し続けることが大切だと思いました。

「全国統一応募用紙」は、
誰のためにあるのでしょうか

～私たちの認識を考えてみましょう～

吉田 和徳



第13回 人権・部落問題学習実践交流会

1月16日に時津町北部コミュニティセンターで実施しました。今回は、県内各地の15本の実践報告が持ち寄られ、「豊かなつながりづくり」「人権課題をもとに学ぶ」「人権教育担当者として」「人権教育教材をもとに」の4分科会に分かれて、熱心な討議が行われました。

県内の小・中・高・特別支援学校において、子どもの実態に合わせた取り組みが行われています。自身の実践をまとめ、報告することは新たな気づきにつながります。本会の様子をまとめた冊子は地区の人権教育研究会に保管していますのでお尋ねください。

第76回全国人権・同和教育研究大会

今年度の全人教大会は、11月29日～30日に兵庫県と大阪府で開催されました。全国から90本の実践が報告され、4分科会20分散会会で活発な議論がなされました。

長崎県からは、五島市立盈進小学校の柴田博治さんが「地域の人権課題の授業化と実践の広がりを求めて」というタイトルで報告されました。これは50年以上前に発生した「カネミ油症事件」により差別を受けた被害者の生き方に焦点を当てた授業です。「カネミ油症」についての質問も多くありました。討議では、聞き取りをした被害者の思いを大事にして授業化したことや、この授業が五島市内すべての小中学校で実施されるようになったことを評価する意見が多く出されました。

地域の人権課題を風化させず、向き合おうとする姿勢は、県内の他地区でも大いに学ぶべきことだと感じました。